

〔参考〕 P F C熱量比率、食料自給率及び飼料需給表

- 1 平成21年度におけるP F C熱量比率は、前年度に比べ脂質（F）が0.5ポイント低下し、たんぱく質は前年同となった。
- 2 食料自給率（供給熱量総合食料自給率）は、国産供給熱量が前年度に比べ46kcal減の964kcal、供給熱量が前年度に比べ36kcal減の2,436kcalとなったことから、前年度に比べ1ポイント低下し、40%となった。

○ たんぱく質、脂質、糖質（炭水化物）の供給熱量割合（P F C熱量比率）

(単位：%)

	たんぱく質 (P)		脂 質 (F)		糖質（炭水化物） (C)	
昭和40年度	12.2	(11.9)	16.2	(15.7)	71.6	(72.4)
50	12.7	(12.3)	22.8	(21.9)	64.5	(65.8)
60	12.7	(12.1)	26.1	(24.9)	61.2	(63.0)
平成2年度	13.0	(12.4)	27.2	(25.7)	59.8	(61.9)
7	13.3	(12.6)	28.0	(26.6)	58.7	(60.8)
12	13.1	(12.5)	28.7	(27.1)	58.2	(60.4)
13	13.4	(12.7)	28.9	(27.2)	57.7	(60.1)
14	13.2	(12.5)	28.9	(27.2)	57.9	(60.3)
15	13.1	(12.4)	29.1	(27.4)	57.8	(60.2)
16	13.1	(12.3)	28.6	(26.8)	58.3	(60.9)
17	13.1	(12.1)	28.9	(26.8)	58.0	(61.1)
18	13.0	(12.0)	29.1	(26.9)	57.9	(61.1)
19	12.9	(12.0)	28.8	(26.6)	58.3	(61.4)
20	13.0	(12.0)	28.9	(26.5)	58.1	(61.5)
21（概算）	13.0	(12.0)	28.4	(26.1)	58.6	(61.9)

注1：昭和40年度～59年度は、科学技術庁「四訂日本食品標準成分表」、60年度以降は、「五訂日本食品標準成分表」を適用した。

注2：（ ）は、酒類を含んだ場合の供給熱量割合である。

○ 食料自給率の推移

(単位：%)

		昭 和	50	60	平成	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
		40年度			7年度										(概算)	
品 目 別 自 給 率	米	95	110	107	104	95	95	96	95	95	95	94	94	95	95	
	うち主食用					100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
	小麦	28	4	14	7	11	11	13	14	14	14	13	14	14	11	
	大麦・はだか麦	73	10	15	8	8	8	9	9	9	8	8	9	11	8	
	いも類	100	99	96	87	83	84	84	83	83	81	80	81	81	78	
	かんしょ	100	100	100	100	99	98	96	94	94	93	92	94	96	94	
	ばれいしょ	100	99	95	83	78	80	81	80	80	77	76	77	76	73	
	豆類	25	9	8	5	7	7	7	6	6	7	7	7	7	9	8
	大豆	11	4	5	2	5	5	5	4	3	5	5	5	5	6	6
	野菜	100	99	95	85	81	81	83	82	80	79	79	81	82	83	
	果実	90	84	77	49	44	45	44	44	40	41	38	40	41	41	
	みかん	109	102	106	102	94	96	98	104	99	103	94	99	99	101	
	りんご	102	100	97	62	59	58	63	62	53	52	52	49	54	58	
	肉類(鯨肉を除く)	90 (42)	77 (16)	81 (13)	57 (8)	52 (7)	53 (7)	53 (7)	54 (7)	55 (8)	54 (8)	56 (7)	56 (8)	56 (8)	57 (8)	
	牛肉	95 (84)	81 (43)	72 (28)	39 (11)	34 (9)	36 (10)	39 (10)	39 (10)	44 (12)	43 (12)	43 (11)	43 (12)	44 (12)	43 (11)	
	豚肉	100 (31)	86 (12)	86 (9)	62 (7)	57 (6)	55 (6)	53 (5)	53 (5)	51 (6)	50 (6)	52 (5)	52 (6)	52 (6)	55 (6)	
	鶏肉	97 (30)	97 (13)	92 (10)	69 (7)	64 (7)	64 (6)	65 (6)	67 (6)	69 (8)	67 (8)	69 (7)	69 (7)	70 (8)	70 (8)	
	鶏卵	100 (31)	97 (13)	98 (10)	96 (10)	95 (11)	96 (10)	96 (9)	96 (9)	95 (11)	94 (11)	95 (10)	96 (10)	96 (10)	96 (10)	
	牛乳・乳製品	86 (63)	81 (44)	85 (43)	72 (32)	68 (30)	68 (30)	69 (30)	69 (29)	67 (28)	68 (29)	67 (27)	66 (27)	70 (30)	71 (30)	
	魚介類	100	99	93	57	53	48	47	50	49	51	52	53	53	53	
	うち食用	110	100	86	59	53	53	53	57	55	57	60	62	62	62	
海藻類	88	86	74	68	63	62	66	66	65	65	67	71	71	72		
砂糖類	31	15	33	31	29	32	34	35	34	34	32	33	38	33		
油脂類	31	23	32	15	14	13	13	13	13	13	13	13	13	14		
きのこ類	115	110	102	78	74	75	77	77	78	79	81	83	86	87		
飼料用を含む 穀物全体の自給率		62	40	31	30	28	28	28	27	28	28	27	28	28	26	
主食用穀物自給率		80	69	69	65	60	60	61	60	60	61	60	60	61	58	
供給熱量ベースの 総合食料自給率		73	54	53	43	40	40	40	40	40	40	39	40	41	40	
生産額ベースの 総合食料自給率		86	83	82	74	71	70	69	70	69	69	68	66	65	70	
飼料自給率		55	34	27	26	26	25	25	23	25	25	25	25	26	25	

(注1) 米については、国内生産と国産米在庫の取崩しで国内需要に対応している実態を踏まえ、平成10年度から国内生産量に国産米在庫取崩し量を加えた数量を用いて、次式により品目別自給率、穀物自給率及び主食用穀物自給率を算出している。

$$\text{自給率} = \frac{\text{国産供給量 (国内生産量 + 国産米在庫取崩し量)}}{\text{国内消費仕向量}} \times 100 \text{ (重量ベース)}$$
 なお、国産米在庫取崩し量は、12年度が24千トン、13年度が262千トン、14年度が243千トン、15年度が1,147千トン、16年度が374千トン、17年度が3千トン、18年度が178千トン、19年度が13千トン、20年度が▲366千トン、21年度が▲148千トンである。

(注2) 品目別自給率、穀物自給率及び主食用穀物自給率の算出は次式による。

$$\text{自給率} = \frac{\text{国内生産量}}{\text{国内消費仕向量}} \times 100 \text{ (重量ベース)}$$

(注3) 供給熱量総合食料自給率の算出は次式による。ただし、畜産物については、飼料自給率を考慮して算出している。

$$\text{自給率} = \frac{\text{国産供給熱量}}{\text{国内総供給熱量}} \times 100 \text{ (熱量ベース)}$$

(注4) 生産額ベースの総合食料自給率の算出は次式による。ただし、畜産物及び加工食品については、輸入飼料及び輸入食品原料の額を国内生産額から控除して算出している。

$$\text{自給率} = \frac{\text{食料の国内生産額}}{\text{食料の国内消費仕向額}} \times 100 \text{ (生産額ベース)}$$

(注5) 飼料自給率については、TDN(可消化養分総量)に換算した数量を用いて算出している。

(注6) 肉類(鯨肉を除く)、牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳・乳製品の()については、飼料自給率を考慮した値である。

○ 飼料需給表

(単位：T D N千トン、%)

	需 要 量	供 給 量				自 給 率		
		粗 飼 料		濃 厚 飼 料		純 国 内 産 飼 料 自 給 率 (C+E) / A	純 国 内 産 粗 飼 料 自 給 率 C / B	純 国 内 産 濃 厚 飼 料 自 給 率 E / D
		う ち 国 内 供 給	う ち 純 国 内 産 原 料	D	E			
A	B	C	D	E	(C+E) / A	C / B	E / D	
昭和40年度	13,359	4,519	4,519	8,840	2,771	55	100	31
50	19,867	4,793	4,793	15,074	2,060	34	100	14
60	27,596	5,708	5,278	21,888	2,310	27	92	11
平成2年度	28,517	6,242	5,310	22,275	2,187	26	85	10
3	28,572	6,161	5,073	22,411	2,268	26	82	10
4	28,476	6,130	5,056	22,346	2,206	26	82	10
5	28,241	5,767	4,527	22,474	2,150	24	78	10
6	27,550	5,839	4,705	21,711	2,196	25	81	10
7	27,098	5,912	4,733	21,186	2,239	26	80	11
8	26,600	5,811	4,529	20,789	2,227	25	78	11
9	26,496	5,761	4,518	20,735	2,152	25	78	10
10	26,173	5,709	4,453	20,464	2,104	25	78	10
11	26,003	5,595	4,290	20,408	2,039	24	77	10
12	25,481	5,756	4,491	19,725	2,179	26	78	11
13	25,373	5,573	4,350	19,800	1,995	25	78	10
14	25,713	5,663	4,394	20,050	1,948	25	78	10
15	25,491	5,387	4,073	20,104	1,897	23	76	9
16	25,107	5,565	4,194	19,542	2,182	25	75	11
17	25,164	5,485	4,197	19,678	2,214	25	77	11
18	25,249	5,500	4,229	19,749	1,967	25	77	10
19	25,316	5,546	4,305	19,770	2,120	25	78	11
20	24,930	5,536	4,356	19,393	2,090	26	79	11
21 (概算)	25,138	5,409	4,205	19,730	2,122	25	78	11

資料：生産局畜産部畜産振興課

注1：T D N（可消化養分総量）とは、エネルギー含量を示す単位であり、飼料の実量とは異なる。

注2：濃厚飼料の「うち純国内産原料」とは、国内産に由来する濃厚飼料（国内産飼料用小麦・大麦等）であり、輸入食料原料から発生した副産物（輸入大豆から搾油した後発生する大豆油かす等）を除いたものである。

注3：昭和59年度までの輸入は、全て濃厚飼料とみなしている。